

# 巻頭言

## Foreword

常務執行役  
CTO (技術戦略担当)  
防衛・宇宙システム事業本部長

佐藤智典



新年あけましておめでとうございます。

平素から“三菱電機技報”をご愛読いただき、誠にありがとうございます。新たな年を迎え、皆様に最新の技術情報をお届けできることを大変光栄に思います。

三菱電機グループは、事業を通じた社会課題の解決によって、持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。グリーン研究開発では、機器の省エネルギー化・電動化、次世代パワー半導体・光デバイスの開発、再生可能エネルギー導入の拡大に貢献するエネルギーマネジメント、カーボンリサイクル、材料・製品の循環利用に向けた開発など、グリーン関連領域での事業の拡大と創出に向け、積極的な投資を行います。

今後、カーボンニュートラルだけでなく、サーキュラーエコノミー、さらにはネイチャーポジティブの概念が世界のトレンドとして定着する中、これらの社会全体の課題に取り組み、皆様の生活を守りながら持続可能な社会の実現に向けた研究開発を一層強化します。さらに、既存の事業や組織の枠を超えた包括的、戦略的な活動も推進してまいります。

グリーンとデジタルは、社会・環境を豊かにしながら事業を発展させる“トレード・オン”の活動には欠かせない技術テーマです。当社グループのありたい姿である“循環型デジタル・エンジニアリング企業”として、顧客から得られたデータを集約・分析し、脈々と培ってきた技術と限りない創造力によって、新たな価値の創出に貢献します。また、労働力不足・人件費高騰を背景とした労働人口問題は、重要な社会課題です。当社グループはこれまで数々の自動化・省人化に取り組んでまいりましたが、継続的なニーズの拡大に対応するため、自動化技術を様々な分野に適用し、国内外で展開する技術開発を推進してまいります。

現在、多様なサービスが台頭し始めている生成AIは、10年後にはほとんどのユーザーまで浸透し、世の中で当たり前のように使用される時代になっていると容易に想像できます。生成AIの技術は様々な分野で利用が進み、当社でも事業展開や社内での活用を実施していますが、イノベーションの中心にあるのは、更に先を行く次の技術であると考えています。当社のAI技術は、以前から全てのモノを賢くするため、AIを“コンパクト化”し、あらゆる機器への搭載を可能にする独自の技術ブランドである“Maisart”を展開してきました。生成AIの活用やクラウド接続が前提の現在でも、これまで開発してきたAI技術と生成AIを組み合わせることで、より信頼性のある“責任あるAI”の確立を目指します。データ流通・活用や今後の我々の生活に欠かせなくなる、AI・生成AIの活用と、安心・安全を守るセキュリティ・プライバシー技術の開発を推進してまいります。

さらに、変化の大きい未来社会で生まれる新たなニーズや課題に対応する新技術の探索・創出にも引き続き注力してまいります。バックキャストアプローチとフォアキャストアプローチを駆使し、サステナブルな社会の実現に資する研究開発テーマを探索し、ゲームチェンジを起こすフォアサイトテクノロジーとして技術開発に挑戦していきます。

1月号と2月号の2巻にわたってお届けする“技術の進歩特集”号では、様々な社会課題の解決を通じて持続的成長の実現を目指した最新の技術をご紹介します。これらの技報を通じて、私たちの取り組みや技術の進歩をご理解いただき、新たなアイデアや視点をいただければ幸いです。今後とも、私たちの研究開発に対するご支援とご理解を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

最後になりましたが、改めて皆様の社業のますますのご発展とご健勝を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。